



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
 東京都中央区日本橋本町4-3-8
 担当
 TEL(03)3270-2701
 FAX(03)3270-2720
 緊急連絡 同上
 改訂日 2022/07/11
 SDS整理番号 14218232

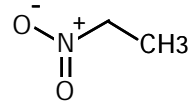
製品等のコード : 1421-8232

製品等の名称 : ニトロエタン

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
 ロケット燃料、火薬、爆薬、溶剤、洗浄剤、農薬原料(中間体を含む)、
 老化防止剤、安定剤 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

爆発物 : 区分に該当しない
 引火性液体 : 区分3
 自己反応性化学品 : タイプG
 自然発火性液体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分4
 急性毒性(吸入:蒸気) : 区分4
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(血液系)、
 区分3(気道刺激性、麻酔作用)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分2
 水生環境有害性 長期(慢性) : 区分2

注意喚起語：危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
 飲み込むと有害(経口)
 吸入すると有害(蒸気)
 眼刺激
 血液系の障害
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気又はめまいのおそれ
 水生生物に毒性
 長期的影響によって水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること、アースをとること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

ミスト、蒸気などを吸入しないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に

外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。

漏出物を回収すること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	化学物質
化学名	：	ニトロエタン (別名) 1-ニトロエタン、2-ニトロエタン (英名) Nitroethane (EC名称)、1-Nitroethane、2-Nitroethane、Ethane, nitro- (TSCA名称)
成分および含有量	：	ニトロエタン、95.0% 以上
化学式、構造式	：	CH ₃ CH ₂ NO ₂ 、C ₂ H ₅ NO ₂ 、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	75.07
官報公示整理番号	：	(2)-192
化審法	：	公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	：	
CAS No.	：	79-24-3
EC No.	：	201-188-9
危険有害物質	：	ニトロエタン

4. 応急措置

吸入した場合	：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	：	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	：	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。 まぶたを親指と人さし指で掂げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	：	直ちに口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	：	吸入：頭痛、咳、めまい、息切れ、痙攣、意識喪失、脱力感。 その他の症状は「経口摂取」の項を参照。 皮膚：発赤

眼：発赤
 経口摂取：腹痛、紫色（チアノーゼ）の唇や爪、紫色（チアノーゼ）の皮膚、咽頭痛。
 他の症状については「吸入」の項を参照。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：本製品は可燃性、引火性であり、燃焼しやすい。
 粉末、二酸化炭素、泡（耐アルコール泡）、水噴霧
 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。）
 特有の危険有害性：引火性が極めて高い。
 極めて燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。
 引火点(28)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
 本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法：火元への燃焼源を遮断する。
 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：消火作業の際は風上から行き、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 ：漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
 風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項
 回収、中和：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材
 ：危険でなければ漏れを止める。
 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
- 二次災害の防止策：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
 周辺の発火源を速やかに取除く。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
 技術的対策：裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤、還元剤との接触禁止。
 引火点(28)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
 指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
 炎、火花または高温体との接触を避ける。
 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気：防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
- 安全取扱い注意事項：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。

	屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	： 炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管 技術的対策	： 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の 軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	： 光のばく露や高温を避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 施錠して保管する。 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	： 強酸化剤、強還元剤、アミン
容器包装材料	： ガラスなど。 アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。

<参考> 容器包装材料の室温における耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 ○：良好 △：やや良好(条件による) □：やや不良 ×：不良 -：データなし 】

スチレンゴム ○ クロロブレンゴム(ネオブレン) ○ ニトリルゴム × プチルゴム ○
天然ゴム ○ シリコーンゴム ○ フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) × テフロン ○
軟鋼 ○ ステンレス(SUS304 SUS316) ○ チタン ○ アルミニウム ○ 銅 ○
軟質塩ビ × 硬質塩ビ × ポリスチレン × ABS × ポリエチレン × ポリプロピレン ×
ナイロン - アセタール樹脂 - アクリル樹脂 × ポリカーボネート - ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	： 未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：	
日本産衛学会	未設定
ACGIH	TLV-TWA 100ppm
設備対策	： 防爆の電気・照明機器を使用する。 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。 静電気放電に対する予防措置を講ずる。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（ネオブレン製など）を着用する。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	： 液体
性状	： 無色～うすい黄色の澄明
色	： 特異臭（快い香り）
臭い	： 弱酸性（pH6.0、25℃、0.01M）
pH	： -50
融点	： データなし
凝固点	： 114
沸点	： 28（密閉式）
引火点	： 引火性
可燃性	： 下限 3.4vol%、 上限 4.0vol%
爆発範囲	： 2.08 kPa (20℃)、 2.77 kPa (25℃)
蒸気圧	： 2.6
相対ガス密度（空気 = 1）	： 2.6

20 での蒸気/空気混合 気体の相対密度(空気 = 1)	: 1.03
密度又は相対密度	: データなし
比重	: 1.050 ~ 1.053 (20/4)
溶解度	: 水に溶ける(混和する) (4.5g/100mL、 20)。 アルカリ水溶液に可溶。 メタノール、エタノール、エーテル、アセトンに混和しやすい。 クロロホルムに混和する。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 0.18
発火点	: 410
分解温度	: データなし
臭いのしきい(閾)値	: 2.1ppm
粘度	: 0.661mPa・s (25)、0.602mPa・s (30)、0.63mPa・s (35)
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
爆発物	: 爆発性に関連する原子団(ニトロ基)を有し、酸素収支が-94と、 基準の-200より高いが、国連分類2842、クラス3に分類されており、 上位のクラス1に分類されていないことから、区分に該当しないとした。
引火性液体	: 引火点28 (closed cup) (ICSC (2013)) に基づき、区分3とした。 引火性液体及び蒸気(区分3)
自己反応性化学品	: 爆発性に関連する原子団(ニトロ基)を有するが、国連分類2842、 クラス3に分類されており、上位の自己反応性化学品には該当しない ことから、タイプGとした。
自然発火性液体	: 発火点が410 (ICSC (2013)) であり、常温で発火しないと考えら れることから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)	
危険有害反応可能性	: 通常の取扱条件において安定である。 酸、アミン、無機塩基、重金属酸化物と反応し、衝撃に敏感な化合物が 形成される。 急速に高温に加熱すると爆発することがある。 塩基、可燃性物質、強酸化剤と反応し、火災と爆発を生じることがある。 自己反応性があり、熱、光などにより暴走反応を生じることがある。
避けるべき条件	: 高温、日光、光、裸火、スパーク、静電気
混触危険物質	: 強酸化剤、酸、アミン、無機塩基、重金属酸化物
危険有害な分解生成物	: 燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 1625mg/kg (DFGOT vol.19, 2003) 飲み込むと有害(区分5)(経口) 経皮 分類できない。 吸入(蒸気)ラットへの6時間吸入試験において、2,200 ppm (4時間 換算値: 2,694 ppm) のばく露量で毒性症状が認められず、13,000ppm (4時間換算値: 15,921 ppm) のばく露量で全例死亡との報告(DFGOT vol. 19 (2003)、ACGIH (7th, 2001)) とがあるため、 2,694 ppm < LC50値 < 15,921 ppm と推測される。この推定LC50値に 基づき、区分4とした。 吸入すると有害(蒸気)(区分4) 吸入(ミスト) 分類できない。
皮膚刺激性/刺激性	: 区分に該当しない(国連分類基準の区分3)。 本物質の原液0.5 mLを投与した結果、軽度の赤斑がみられたのみで 刺激性なしとの報告がある(HSDB (2014))。 また、本物質はウサギに対して弱い刺激性を持つとの記載がある (DFGOT vol. 19 (2003))。 以上の結果から区分に該当しない(国連分類基準の区分3) とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 本物質はウサギ結膜に対して弱い刺激性を持つ(DFGOT vol. 19 (2003)) との記載があり、DFGOT vol. 19 (2003) は粘膜に対して 弱い刺激性を持つと結論付けている。また、ウサギに本物質の原液 0.1 mLを適用した結果、流涙がみられた(HSDB (2014)) が、刺激性の 分類基準に適應する眼の変化は認められなかった。 以上「弱い刺激性」から、区分2Bとした。 眼刺激(区分2B)
呼吸器感受性	: 分類できない。
皮膚感受性	: 分類できない。 HSDB (2005)のモルモットを用いたDraize testにおいて

- 感受性が認められなかったことから、区分に該当しないの可能性があるが、データ不足のため分類できないとした。
- 生殖細胞変異原性：区分に該当しない。
- 発がん性：in vivoでは、マウス骨髄細胞の小核試験で陰性 (DFGOT vol. 19 (2003)、PATTY (6th, 2012)、HSDB (2014))であった。分類できない。
- 生殖毒性：DFGOT vol. 19 (2003)、PATTY (6th, 2012)、SIAP (2010) で、ラットを用いた2年間吸入ばく露試験で発がん性が認められていないとの報告がある。1種類の動物における発がん性試験結果であるため、データ不足のため分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)：分類できない。マウスを用いた吸入経路による催奇形性試験において、母動物毒性、催奇形性、胚・胎児毒性のいずれもみられていないとの報告がある (DFGOT vol. 19 (2003))。しかし、母動物毒性がみられない用量1用量のみの試験であり、信頼性に乏しいことから分類に用いなかった。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)：本物質は気道刺激性、麻酔作用がある。ヒトにおいては、小児が経口摂取した2症例で、嘔吐、胃の刺激、眠気、息切れ、無気力、チアノーゼ、メトヘモグロビン血症の報告がある (DFGOT vol. 19 (2003)、PATTY (6th, 2012)、HSDB (2014))。実験動物ではモルモット、ウサギの1500 mg/m³ (1.5 mg/L) 以上の吸入ばく露で、流涎、呼吸困難、ラ音 (DFGOT vol. 19 (2003))、モルモット、ウサギの吸入ばく露 (濃度不記載) で、脳浮腫、脳のうっ血 (HSDB (2014))、ラットの1,256 mg/kgの経口投与で運動失調、痙攣の報告がある (SIAP (2010))。以上より、血液系への影響、気道刺激性、麻酔作用があると考えられ区分1 (血液系)、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。なお、ラットの経口投与の知見はSIAPのみであり、情報源をたどれないため区分対象としなかった。また、脳浮腫、脳のうっ血の知見は濃度不記載のため区分対象としなかった。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)：分類できない。血液系の障害 (区分1)
呼吸器への刺激のおそれ (区分3)
眠気又はめまいのおそれ (区分3)
- 誤えん有害性：ヒトでは急性ばく露による情報はあるが、反復ばく露による有害性知見はない。実験動物では、ラットに本物質を最大200 ppm の濃度で2年間 (7時間/日、5日/週) 吸入ばく露した発がん性試験で、血液及び血液化学検査の各パラメータ値、及び病理組織学的検査で異常を認めず、無影響濃度 (NOEL) が 200 ppm とされている (DFGOT vol. 19 (2003)、PATTY (6th, 2012))。吸入ばく露した物質の状態を蒸気と仮定し、200 ppm をガイダンス値へ濃度換算すると、区分2の範囲内の値 (0.72 mg/L/6時間) となるが、区分2上限濃度での影響の有無は不明である。この他に分類可能な情報はなく、データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)：藻類 (セネデスムス) 72時間ErC50 = 6 mg/L (SIDS, 2010)

水生生物に毒性 (区分2)

水生環境有害性 長期(慢性)：急速分解性がなく (28日間の分解度 < 0.1% (SIDS, 2010))、藻類 (セネデスムス) の72時間ErC50 = 6 mg/L (SIDS, 2010) であることから、区分2とした。

残留性・分解性

：難分解性。BOD分解度 < 0.1%

生物蓄積性

：低濃縮性。Log Kow = 0.18

土壤中の移動性

：データなし

オゾン層への有害性

：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

：関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って

危険有害性のレベルを低い状態にする。
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 (参考) 燃焼法
 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 129

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 2842
 Proper Shipping Name : NITROETHANE
 Class : 3 (引火性液体)
 Sub risk : -
 Packing Group : III
 Marine Pollutant : Yes (該当)
 TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE
 POLLUTANT CATEGORY : Y (ニトロエタン)
 Limited Quantity : 5L

航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 2842
 Proper Shipping Name : Nitroethane
 Class : 3
 Sub risk : -
 Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報 (消防法、道路法の規定に従う)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 2842
 品名 : ニトロエタン
 クラス : 3
 副次危険 : -
 容器等級 : III
 海洋汚染物質 : 該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : Y (ニトロエタン)
 少量危険物許容量 : 5L

航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 2842
 品名 : ニトロエタン
 クラス : 3
 副次危険 : -
 等級 : III
 少量輸送許容物件 : 10L

特別の安全対策

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。
 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 重量物を上積みしない。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第421号「ニトロエタン」、対象重量%は 1) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第421号「ニトロエタン」、対象重量%は 1) (別表第9) 危険物・爆発性の物(施行令別表第1第1号)
化学物質排出管理促進法(PRTR法)	: 非該当 ただし、R5年4月1日からPRTR法の対象物質に該当。 ・分類 「第2種指定化学物質」 ・政令番号 「2-79」 管理番号: 790 ・政令名称 「ニトロエタン」
毒劇物取締法	: 非該当
消防法	: 危険物第5類自己反応性物質、ニトロ化合物(第2種自己反応性物質) 指定数量100kg、危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
船舶安全法	: 引火性液体類(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	: 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質「ニトロエタン」(施行令別表第1)
水質汚濁防止法	: 生活環境項目(施行令第三条第一項) 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 〔排水基準〕160mg/L 以下(日間平均 120mg/L 以下) 「窒素の含有量」 〔排水基準〕120mg/L 以下(日間平均 60mg/L 以下) (注)排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。
輸出貿易管理令	: キャッチオール規制(別表第1の16項) 第29類 有機化学品 HSコード: 2904.20 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号(2022年版): 2904.20-000 「炭化水素のスルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体(ハロゲン化してあるかないかを問わない。) - ニトロ基又はニトロソ基のみを有する誘導体」 ・輸入統計番号(2022年4月1日版): 2904.20-200 「炭化水素のスルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体(ハロゲン化してあるかないかを問わない。) - ニトロ基又はニトロソ基のみを有する誘導体 - 2 その他のもの」

16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会編
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。